

山村から見る地元学のススめー地域のあるもの探しからはじまる暮らしづくり・里づくりー

特定非営利活動法人 里の自然文化共育研究所 出川真也
Institute of Collaborative Education for Sustainable Rural Communities, NPO
Degawa Shinya

1、里の自然環境の構成と基盤ー里の自然環境とふるさと文化のかかわりー

・里の人々が自然とともに織りなしてきた暮らしの文化ー知恵と技術ー

・基盤となっているのは

自然環境（里山、川、農業）

生活文化（郷土料理、もの作り、住まい）

→暮らしと密接な関係があった伝統文化・・・民話、祭り、年中行事等

2、里の自然文化の基盤となる地域の暮らしは今、どうなっているだろうか？

・地域集落の自然環境の現状を把握

・地域集落の生活文化の現状を把握

・地域集落の人々の意識を把握

→ポイント

・地域の住民自らがまず学習し把握することが次への行動へとつながる。

・その中で外部者を「活用」することも有効

→地元学のおすすめ



地元学による調査の様子

3、地元学の活動とその意義

・地元学による地域の再発見

→外部者の目線の違いを活用して住民が地域を再認識していくプロセスを重視

・地域内コミュニケーションの活性化

→次のステップの具体的な行動を起こすための基盤となる

・特定の領域だけでなく、互いが互いに支えあうものとして、数多くの里の素材が学習の対象として

いくこと

4、地元学から住民が作り出した里地里山保全活動ー戸沢村角川の事例ー

里の自然と文化を次世代へ伝えたいという住民のメッセージ

・地域には貴重な自然、生活文化、伝統文化、それらを担う人材が再発見

・一方、それらが受け継がれないまま廃れていこうとしている現状がある。

「このままでは本当に何も無い村になってしまう」

→地域運営学校「角川里の自然環境学校」の設立

5、角川里の自然環境学校の活動内容

5-1、活動理念

地域にこそ様々な学習機会やよさがある。地元学（地元から学ぶ）を実施。山、川、食、農、もの作り、民話の各分野で再発見。地域のおじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんこそが先生役。地域運営学校「角川里の自然環境学校」の誕生。

5-2、子ども達への体験学習や地域学習がすすむ

山の学校

ー里山の自然と暮らし方を学ぶー



川の学校

ー川と人々の暮らし、生態系への想像力を育むー



食の教室

ー地域のお母さん達と

地元の資源を利用した郷土料理教室ー



農の学校

—無農薬の田んぼ、畑の学校—



もの作り塾

—地元のおじいちゃん、おばあちゃんとももの作り—



民話塾

—里に残る言い伝えから地域の「心」を学ぶ—



5-3、子ども達の中から変化が・・・

地元の中学生の作文より

「『角川？どこにあるんですか』・・・こう聞かれて恥ずかしいと思ったことがあります。なぜなら、僕にとって、角川は何もないただの田舎だったからです。僕が暮らす角川は、ヤマメやイワナがたくさん泳ぐ美しい川に沿って小さな部落が点在する地区です。都会の人は、『自然がきれいでいいね』『ゆっりできていいね』などと言いますが、僕は心の中で、それは違うと思っていました。田や畑仕事の大変さや、町から遠いことによる不便さ、そして高齢化や過疎化など深刻な問題もたくさん抱えているからです。」

「角川の地元学は、便利さなど表面的なものに憧れ、自分の身近なものの本当の価値に気づけなかった僕が、足元を見直す貴重な体験となった」

「若者がいない、活気がない、大型スーパーがなくて不便だというマイナス面だけがクローズアップされてきました。『昔はこんなじゃなかった』とは言っても、どのようにすれば若者が引き留められ活気を取り戻せるのか、真剣になって解決策を考え実行しようとする人は誰一人いませんでした。今は大人が立ち上がり、解決策を考え、大切な文化を子ども達に伝えようとしています」

「真剣になっている大人の心を、僕たち子どもがしっかり受け止めなければならないと思います。そういう気づきをこれからも大切にしながら、『元気のある田舎 角川』を全国に発信したいと思います。」

6、最新の状況-持続可能な「共育」活動を目指して—

次世代の子ども達のために地域を開き育てよう-新しい里づくりへ

6-1、地域資源活用による地域経済作り

- ・ ツーリズム
- ・ 産品開発

→「コミュニティビジネス」として展開をはかる：文化伝承活動の母体である里の集落の維持継続
→里の集落の日常に埋め込まれた無理のない地域作り活動であること

6-2、里の環境と文化に立脚した新しい循環共生型「ライフスタイル」作り

6-3、高等教育機関との連携の模索

山形大学エリアキャンパスもがみ

→学生の受け入れと「新たな地元学」の実施

→活動の体系化と高度化、より普遍的な活動への発展を目指して

6-4、多主体連携と広域連携

「NPO法人 里の自然文化共育研究所」の設立

→地域を世界に開いていくこと、外部者とも連携しながら、住民が作業者として、地域を新たにデザインし、具体的に暮らしの中から手作りで行動に移していくこと。

＝新たな地域社会作りと交流と学習へ

Memo
